

**2010年7月23日 日本テレビ 定例記者会見****《 全文 》****< 発表 >**

細川知正社長：8月は日本テレビが地デジ推進強化月間の幹事月で、引き続き、やれることはあらゆることをやって地デジの普及をアピールしていきます。そのひとつとして「日テレ地デジ夏祭り」を行います。8月3日に、5時20分「ズームイン!!SUPER」から「ショーバト！」が終わる24時29分まで、10分未満の番組を除く15番組で18時間以上にわたり、デジタル放送のデータ放送で番組スタンプラリーによるプレゼント展開を実施します。「デジタル放送のメリット」を訴えることで、地デジ推進に繋げることも目的としています。さらに8月6日「金曜ロードショー」で「サマーウォーズ」を放送しますが、映画放送史上初めて、データ放送で映画の見所を紹介します。この「データ放送 シーンガイド」は、番組の進行に合わせて場面ごとの解説や豆知識等を紹介するものです。こうしたものを合わせ、地デジに関してはあらゆることをやっていこうというのが今の取り組みです。

一方、フランス・パリのルーヴル美術館で「ミロのヴィーナス」像を中心とする古代ギリシア美術の新しい展示順路が完成しました。日本テレビはこの事業を資金面で全面支援しております。私どもはこれまでに「モナ・リザの展示室」設置事業に協力しましたが、今回はミロのヴィーナス、そしてこれから始まる「サモトラケのニケ」像の修復とそのスペースの環境整備事業にも全面協力することを決めております。引き続き、ルーヴル美術館の宝物と言える作品展示についてより多くの方にご覧頂けるように協力をしてまいります。

さらに、「日テレ体験教室」を8月1日に横浜市の放送ライブラリーにて開催します。「日テレ体験教室」は2007年5月以来、のべ17回に渡って実施してきましたが、学校以外の公的施設で開催するのは今回が初めてで、一般的な公共施設でより多くの方に体験して頂きたいと考えています。

舛方勝宏副社長：8月3日の「日テレ地デジ夏祭り」のデータ放送は、データ放送に接触するチャンスがまだあまりない視聴者の皆さんに、「地デジはこんなことができるんですよ」とアピールしたり、接触して頂くために「番組スタンプ

ラリー」を実施するものです。d ボタンを押してデータ放送画面を出して頂くと、1 番組毎にスタンプを1 個押すことができます。集めたスタンプの数に応じてデジタル受像機等をプレゼントします。またアナログ放送でご覧頂いている視聴者の方々には他の応募方法で、デジタルテレビをプレゼントします。応募方法は日本テレビホームページにて告知します。スタンプラリー対象番組は「ズームイン!!SUPER」「キューピー3分クッキング」「情報ライブ ミヤネ屋」「ゴゴドラ」「火曜サプライズ」等の番組で、デジタル放送とd ボタンに触れて頂く狙いです。

さて、日本テレビは映画「ハリー・ポッター」の全シリーズ地上波放送権を獲得しました。「金曜ロードショー」は10月に25周年を迎え、皆さんにご好評を頂いていますが、さらに強力なラインナップを組もうとワーナー・ブラザーズと交渉し、双方のこれまでの長い関係の中で当社が権利を獲得するに至りました。「ハリー・ポッター」の第7作は今年11月19日に公開予定ですが、公開前の洋画の地上波放送権を獲得するのは初めての事です。地上波放送はそのおよそ2年後になりますので、2013年以降は第1作から第8作まで日本テレビが放送する権利を得たこととなります。「ハリー・ポッター」は第6作まで795億円の興行収入を挙げていて、第7作8作で1,000億円を超えることが期待されています。このように非常に人気の高いシリーズの放送権獲得で、「金曜ロードショー」はさらに強化されます。

30日(金)19時から放送します市川海老蔵さんと小林麻央さんの結婚披露宴は詰めの打ち合わせが終わり、あとは本番を迎えるばかりです。出席者は約1,000人という大披露宴です。通常こうした結婚式では司会を日本テレビOBの徳光和夫さんをお願いすることが多いのですが、今回は前半を元NHKアナウンサーの山川静夫さんに担当して頂きます。山川さんは歌舞伎に造詣が非常に深い方です。山川さんの顔をご覧頂く、あるいは声を聞いて頂いて歌舞伎座の雰囲気をつくりたい。前半は市川團十郎さんのごあいさつから始まりますが、会場を歌舞伎座の雰囲気にしたいと思います。そしてお色直し等があった後、徳光さんに後半の本当に楽しい披露宴の司会を担当して頂きます。團十郎さんも海老蔵さんも、隅から隅まで細かくチェックされて本格的な準備をされています。大変素敵な披露宴、そして番組になると確信しています。

## 1. 最近の視聴率動向と編成戦略

舛方副社長：視聴率は先週、プライムタイムで 12.7%と、3 週連続でトップを獲っています。プライムタイムは昨年、年間でトップが 9 回でした。今年は年間 10 回目のトップですから、すでに今の段階で昨年を上回ったこととなります。

ドラマに関しては 7 月からの水曜ドラマ「ホタルノヒカリ 2」が順調に視聴率を獲っています。土曜日 21 時の「美丘」は作品の質が非常に高く、いろいろなモニター調査でも大変好評を頂いています。しかし、フジテレビが映画「踊る大捜査線」を同じ時間帯に編成したため若干影響がありました。さらに今週はフジテレビが「26 時間テレビ」を編成しています。しかし 4 回目以降は作品の質から言っても、主演の吉高由里子さん、あるいは林遣都さんの演技力もありますので、必ず視聴率は上昇してくると期待しています。

4 月改編では、土曜、日曜の番組編成を強化しました。たとえば土曜 19 時「天才！志村どうぶつ園」は昨年の同時期と比べ、視聴率が 2.2 ポイント上がっています。また土曜 19 時 56 分からの「世界一受けたい授業」も昨年同時期より 2.8 ポイント上がりました。このように土曜日の番組はさらに強くなってきたことがわかります。また日曜 19 時 58 分「世界の果てまでイッテ Q！」も人気のある番組で、NHK 大河ドラマの「龍馬伝」をはじめとして厳しい競争のある時間帯ですが、非常に高い視聴率を獲得しています。さらに土曜 22 時「嵐にしやがれ」は以前同じ時間帯で放送していた番組より 1.8 ポイント上げている等、土日が大変好調です。

7 月の改編については、金曜 19 時に新番組「寿命をのばすワザ百科」を編成しました。1 回目が視聴率 12.0%、2 回目はやや下がりましたが、金曜日の番組の視聴率の向上を図っていきたいと考えています。また、この金曜日に 4 時間枠や 2 時間枠を組む等、番組をもう少し柔軟に編成することも検討しています。

記者：NHK の朝の連続ドラマ「ゲゲゲの女房」等が好調なようですし、水曜の夜はテレビ朝日が好調です。分析をお願いします。

舛方副社長：「ゲゲゲの女房」は見事に視聴率が上がってきました。それから水曜日のテレビ朝日「池上彰の学べるニュース」は、いろいろな疑問に答えていくというアイデアが素晴らしいですし、ストレートに必要なものを最低限に削いで伝えていくという形は、今後の放送界に影響があるのではと見ています。

またニュースへの関心がやはり高いということでも参考にしていきたいと思っています。

記者：参議院選挙の開票特番の総括をお願いします。

舛方副社長：私どもは各民放の開票特番で視聴率がトップでした。「ZERO×選挙」が3回目となりブランドが根づいたこと、島田紳助さんと村尾信尚キャスターのコンビネーションがより安定してきたこと等から、視聴者の皆さんに選択して頂けたと考えています。また第2部のキャスターを担当して頂いた「嵐」の櫻井翔さんの出演により、若い世代が選挙を身近に感じるような番組になりました。これらが日本テレビの選挙特番をご覧頂いた大きな理由と捉えています。

記者：FIFAワールドカップが終わりましたので、その総括を聞かせて下さい。

舛方副社長：ワールドカップは日本代表の素晴らしい活躍もあり、いい思い出が残りましたが、もうそろそろプロ野球に切り替えて行きたいと考えています。プロ野球も熾烈な戦いをしています。8月に日本テレビは、デーゲーム5試合とナイター2試合の巨人戦中継を行います。野球の面白さをさらに存分に味わって頂きたいと思います。セ・リーグは首位攻防の天王山を迎えていますのでこちらにシフトしてPRもしたいと考えています。

記者：巨人戦の視聴率の目標はありますか。

舛方副社長：デーゲームは視聴率7~8%は安定的に取りたいと考えています。一方ナイターでは10%は取っていきたい。最近他局でのプロ野球中継はワールドカップに影響されていたと感じます。これからは視聴者の皆さんにプロ野球に切り替えて頂きたいと思っています。

記者：プロ野球中継で視聴者プレゼント等は考えていますか。

舛方副社長：いろいろ企画を検討しています。8月20日（金）のナイターは巨人対阪神の首位決戦ですので、情報系の番組との連携を検討しています。また26日（木）は「24時間テレビ33『愛は地球を救う』」とのコラボナイターとしてゲストをお迎えしようと考えています。

記者：NHKが大相撲名古屋場所の中継を中止して18時台にダイジェストを放送していますが、同じ時間帯の番組への影響はありますか。また今回の問題の推移についての見解をお願いします。

舛方副社長：日曜日は「真相報道 バンキシャ！」の時間帯ですが、視聴率が左右される事はありませんでした。以前から日曜日は「笑点」と大相撲中継が同じ時間帯ですが、この1~2年は「笑点」に対する影響はなくなっています。ダイジェストについても影響はありませんでした。

## 2. 営業状況と放送外収入

記者：営業状況と放送外収入について聞かせて下さい。

細川社長：営業状況は4月からの方向性が全然変わっていない、つまりタイムセールスについてはやはりレベルが良くない状態です。一方、スポットセールスは予想よりも伸びているという状態が4月5月6月と続いています。6月はFIFAワールドカップがありましたのでタイムセールスの売り上げも少し伸びています。第1四半期はタイムセールスの下降よりもスポットセールスの伸びが少し上回っています。10月期のセールスがそろそろ始まりますが、タイムセールスに関してはやはりかなり厳しい見通しです。スポットセールスに見える範囲では順調に進んでいる、その傾向は変わっていないと実感しています。タイムセールスについては最低でも前年同月のベースを早くキープできるようにしたいと思っています。

放送外収入については基本的には順調です。しかし昨年同時期は、日本テレビの美術展史上最高の集客と収益を上げた「ルーヴル美術館展 17世紀ヨーロッパ絵画」や映画「ヤッターマン」、DVDの好調な売上等があり、非常に好調でしたので、比較すると今年はそこまで到達していません。

放送外収入のもう1つの柱、商品事業は順調です。急速に拡大はしませんが着実に伸びています。

記者：先週、映画「借りぐらしのアリエッティ」が公開されました。手応えはどうでしょうか。

細川社長：「借りぐらしのアリエッティ」については実は2つあります。1つはもちろん映画、もう1つは東京都現代美術館で展覧会を行っています。どちら

も出足は好調です。期待しているのは、このまま順調に推移して「崖の上のポニョ」を超えることです。「ポニョ」を超えるとかなりのニュースになりますし、米林宏昌監督が宮崎駿監督にどこまで迫れるか注目しています。東京都現代美術館での展覧会も、アリエッティの世界を実際にセットで表現するとどうなるのか、美術監督の種田陽平さんをお願いしました。「借りぐらしのアリエッティ」と種田監督のコラボレーションの形で、1日平均で4,000人以上入場されています。相乗効果も含め期待できます。出だし好調と感じています。

記者：今後、日本テレビが関連する映画はどのようなラインナップでしょうか。

細川社長：9月は「君に届け」、日本テレビでアニメ放映した恋愛作品の映画版があります。10月には「インシテミル 7日間のデス・ゲーム」というコミック原作の作品があります。11月以降には「GANTZ」の前編を公開します。そして来年2月に「太平洋の奇跡 フォックスと呼ばれた男」を予定しています。サイパン島で終戦後数ヶ月闘い続けた日本兵部隊の実話です。もう一つ、やや小型ですが「かもめ食堂」から始まった同じスタッフ・出演者によるシリーズとして「マザーウォーター」が10月に公開されます。またハリウッド映画「ゴースト ニューヨークの幻」を日本版リメイクした作品を11月に公開予定です。

### 3. 地デジの進捗状況

記者：地デジの進ちょく状況についてお願いします。

細川社長：デジタル受信機の普及状況は6月末の発表で7,783万台と、来年の7月24日までの完全普及に向けて想定通り順調に伸びています。むしろ今問題だと考えているのは、関東地区において地デジ対応アンテナに十分に替えられていないことです。これに関しては関東地区の各局が9月6日以降に常時画面スーパー表示で注意喚起をして、もう一歩踏み込んだ取り組みを行います。日本テレビの取り組みに関しては引き続き、やれることは何でもやるということです。民放連でも集中的に取り組んでいますし、残された問題点を確実にクリアしていくのが目下の急務だと思っています。

記者：先日、「全国一斉地デジ化テスト」を民放各局とNHKで放送しましたが、その効果についてどのように評価されていますか。

細川社長：かなり反響があり、取り組みは成功したと判断しています。引き続

き、同様の取り組みをしていきます。

舛方副社長：「笑点」の中でも取り上げて、視聴率も各局に比べ圧倒的に高い結果となりました。社内も取り組む姿勢がさらに強くなっていますし、社員もますます意識を強く持って積極的にアイデアを出していますので、大変いい流れになっています。また、アナログ放送をご覧の方にご理解頂くため、いわゆる「砂嵐」の放送を実施します。できる限りいろいろなものやっけていく、やれるものは次から次に打ち出し、前倒しでもいいからやろうということです。

記者：1週間前ですが、BPO 初代理事長の清水英夫さんたちがアナログ停波を先延ばししたらどうかという声明を出しましたが、どう思われますか。

細川社長：いよいよあと1年ということで、いろいろなご意見が各方面から出てきています。それにより国民の関心が高まり、視聴者の方たちの対応にとってプラスになると思っています。声明については、私どもとしてはむしろ「大事なことからしっかりやりなさい、取り残しがあってははいけませんよ」と、私どもを叱咤激励して下さるメッセージと受け止めて、作業に臨みたいと思っています。

記者：民放各局とNHKと総務省が作成している「アナログ放送終了計画」の4月改訂版によると、来年7月1日以降はもう通常番組は放送しない、NHKは告知番組を繰り返し流すという計画になっていますが、先日民放連会長は会見で7月24日まで番組をアナログ放送した方がいいのではないかと表明されました。どうお考えですか。

細川社長：これは個人的見解よりも民放連レベルできちんとすり合わせて決めて頂く性質のものだと思います。視聴者の方々を含め、どういう方法が一番いいのかという視点で検討していく性質のものだと思います。ですからどうやったら一番スムーズにデジタルに切り替わるかという趣旨で、その方法論をお互いに提案しているのだと思います。石川県珠洲市等では7月24日から全国に1年先駆けてアナログ放送を止めます。止めてみてどんなことが起こるのか、その様子等を検証しながらデジタルへの切り替えに取り組めばいいと考えます。

(了)